

## 第10回「いけいけチャレンジ！遠賀川」開催

3月1日(土)、遠賀川水辺館で「第10回いけいけチャレンジ！遠賀川」が開催され、遠賀川流域の4つの小学校が水防災・水環境学習に関する成果を発表しました。

児童たちは、劇や歌、壁新聞、プレゼンテーションなどを組み合わせて、身近な川を調べた成果や流域の方々へのメッセージを元気よく発表していました。

### 【直方市立下境小学校】＝発信しよう私たちの遠賀川＝

四季を通して遠賀川で調べたことをクイズや歌、劇で発表しました。

植物、魚、鳥など遠賀川にいる生きものを調査したり、水のきれいさ、ゴミについての調査結果をもとに本当にきれいな川ってどんな川なのかを考えました。



直方市立下境小学校4年生の発表の様子

“川は私たちのものだけではない。みんなの大切な財産。みんなで川を大切にしよう。”

### 【小竹町立小竹北小学校】＝遠賀川研究所＝

総合的学習で川を調べた成果を、遠賀川研究所を舞台に劇やクイズで発表しました。

上流域と下流域で調査した水質の比較、遠賀川にも絶滅危惧種のメダカなどがすんでいることや、ペットとして飼っている魚などの外来生物を川に放流すると川の生態系を乱してしまうこと、牛乳1本を魚がすすめる水質にするには膨大な量の水がいることをクイズで教えてくれました。

“私たちが川をきれいにするために今すぐ出来ることを実践しよう。”

### 【岡垣町立吉木小学校】＝汐入川は豊かな川なのか？＝

吉木小学校の近くを流れる汐入川を調べた結果を壁新聞やクイズにして発表しました。

川にすむ生きもの調査を通して分かった川のきれいさや川が汚れている原因が分かりました。また、川の歴史や言い伝えから、汐入川が昔から人々に大切にされてきたことがわかりました。

“人間が汐入川を汚している。ルールをつくって守れば、川はきれいになる。”

### 【飯塚市立椋本小学校】＝博士と学ぼう！遠賀川＝

身近な遠賀川の治水について調べたことを実験室を舞台に博士が教えてくれました。

川にある石に関する発表では、上流・中流・下流での大きさや形の違いを目の前で実験して、分かりやすく見せてくれました。

“堤防、排水機場、ダムはわたしたちの暮らしを守っています。”



小竹町立小竹北小学校5年生の発表の様子



岡垣町立吉木小学校4年生の発表の様子



飯塚市立椋本小学校5年生の発表の様子



第35号  
平成26年3月

## 黒川の河川敷で草刈りが行われました

黒川では、かつて多くのほたるが飛び交っていましたが、家庭排水の増加、農薬の使用などによる水質の悪化や乱獲によって、一時期姿を消していました。

ほたるを再び黒川に呼び戻そうと、平成4年に結成された香月・黒川ほたるを守る会や行政機関、地元の方々が連携して河川清掃や除草、教育啓発活動に取り組まれた結果、黒川で再びほたるが飛びかうようになりました。

2月1日(土)、この活動を応援しようと「TOTOグリーンボランティア」のみなさんが、黒川の河川敷の草刈りを行いました。

今回で5回を数えるこの活動には60人余りの参加者があり、好天のもと慣れた手つきで、背丈ほどの草を鎌でみるみる刈っていきました。河川敷に日差しがまぶしく輝いていました。

ホタルの餌となるカワニナは、日当たりのよい川で育つそうです。カワニナも元気に育つことでしょう。

※「TOTOグリーンボランティア」は、TOTO株式会社による植樹や地域清掃などの環境にかかわる社会貢献活動です。主な活動として「TOTO水環境基金」の助成団体が主催する環境活動やグループ社員が自ら育てたどんぐりの苗木を植える「TOTOどんぐりの森づくり」があり、その他にも事業所ごとに様々なボランティアに取り組まれています。



## 笹尾川に竹炭を設置しました

「笹尾川水辺の楽校」は、子ども達が水とふれあい親しむ自然教育の場として、平成16年1月に笹尾川に整備されました。地域の方々は、心を込めた除草や清掃活動を通じて、良好な河川環境の維持に努められています。

2月14～15日、水質改善を目的に、笹尾川水辺の楽校運営協議会と遠賀川河川事務所中間出張所が、笹尾川水辺の楽校のせせらぎ水路に竹炭を設置しました。

今回設置された約60袋の竹炭は、NPO法人 遠賀川流域住民の会が、昨年の夏に竹林を整備した時に切り出した竹を炭に加工したものです。

今後、遠賀川河川事務所でも水質をモニタリングして、効果を検証します。



ネットの中の竹炭には、水質を浄化してくれる効果があります。



竹炭は、浄化効果が現れやすいように、水が滞留しているところに設置しています。



## 遠賀川でサケの稚魚を放流① ～遠賀町青少年育成町民会議～

遠賀町青少年育成町民会議は、子ども達に生命の大切さと自然環境を学んでもらおうと、サケの受精卵を河川愛護団体や個人にふ化してもらい、川に放流する活動をしています。

2月23日(日)、遠賀町立広渡小学校近くの西川河川敷で、3cm程に成長したサケの稚魚が放流されました。この稚魚は、昨年12月中旬に30の個人と19の団体に託された6000個の受精卵が、約2か月半の間にふ化して育てられたものだそうです。稚魚を育てた子ども達は、大きく育った稚魚を少し寂しそうに、しかし、得意そうに大きな水槽に移し替えていました。「一番大変だったのは、卵から出てくるとき、卵の殻の始末をすることでした。でもだんだん大きくなっていくのを見るのがうれしかった。」と育てた小学生が話してくれました。

放流会場では、昨年11月末に遠賀町の用水路で発見されたサケの剥製が披露されました。「鮭が帰ってきたという嬉しい知らせは、私たちの活動の励みになります。」と関係者の言葉。約3年振りのサケの遡上に皆さん大喜びでした。剥製は遠賀町役場に展示されています。

当日は、参加者による会場周辺河川敷の清掃活動も行われました。



開会式の様子



剥製のお披露目



清掃活動の様子



放流の準備

## 遠賀川でサケの稚魚を放流② ～遠賀川源流サケの会～

3月5日(水)、嘉麻市大隈の「嘉穂水辺の楽校」で、遠賀川源流サケの会によるサケの放流会が行われました。

今回放流されたサケの稚魚は、昨年12月の『献鮭祭』後に新潟県村上市三面川漁協から届いたサケの受精卵を、遠賀川の源流に近い嘉麻市馬見山中腹にある遠賀川源流のサケ会のふ化場で、クリスマスの頃にふ化させ、水温15度以下のきれいな河川水や地下水で育てたものです。

会長の青木宣人さんは、「今年は水温が低かったので少し小さいですが、元気に育ちました。放流された稚魚はしばらく川にとどまり、次の雨で川が増水して水が濁った状態のときに一気に海に下ります。6月頃に日本海を抜けてアラスカへと進み、大きくなるまでベーリング海で暮らし、順調に成長すれば、川に戻ってくるのは4年後。期待して待ちたい。」と話していました。

放流会に参加した約60人の方々は、約2000匹の稚魚をバケツにとって、「また帰ってきてね。」などと声をかけながら放流していました。

遠賀川源流サケの会による放流会は、3月初旬から下旬にかけて流域各地で行われ、全部で約4万匹の稚魚が放流されました。



日付	河川名	場所	参加団体名
3月5日	遠賀川	嘉麻市嘉穂水辺の楽校	嘉麻市民環境放流会
3月6日	屏川	嘉麻市立足白小学校	足白小学校
3月6日	遠賀川	飯塚市立目尾小学校前	飯塚市立目尾小学校
3月6日	彦山川	金田水辺の楽校	金田小学校・田川ふるさと川づくり交流会
3月7日	穂波川	穂波川と内住川合流点	楽市小学校・穂波川を愛する会
3月7日	山口川	嘉穂山口川	上穂波小学校
3月8日	遠賀川	飯塚市防災センター	飯塚公民館
3月8日	彦山川	彦山川市場小学校前	赤池中学校・ひこさんがわ夢の会
3月8日	遠賀川	嘉穂水辺の楽校	嘉穂ふるさと探検隊
3月11日	建花寺川	二瀬中学校前	伊岐須小学校・龍王・山・里・川の会
3月11日	建花寺川	二瀬中学校前	二瀬中学校・龍王・山・里・川の会
3月12日	遠賀川	中間市役所河川敷	双葉幼稚園・なかも三世代ふれあいの会
3月12日	遠賀川	稲築親水公園	いなつき児童共和国
3月15日	中元寺川	糸田橋	下田川ライオンズクラブ
3月16日	矢矧川	えびつ駅下	矢矧川を清流に良す会
3月17日	彦山川	方城伊方橋	方城中学校・伊方小学校・ひこさんがわ夢の会
3月19日	大分切畑川		うぐいすあすなろ会
3月19日	遠賀川	遠賀川河口堰	芦屋東小学校、九州工業大学 他
3月20日	金辺川	清瀬親水公園	香春町小学生・金辺川を楽しむ会

# 遠賀川が先生です ～遠賀川を題材にした小学校の学習プログラムを作成・実施～

遠賀川河川事務所では、遠賀川流域に暮らす児童が水防災、水環境をよりよく理解し、ふるさとへの愛着を育めるように、身近な遠賀川を題材にした小学生向けの「水防災・水環境河川学習プログラム」を作成しました。

平成25年度は、直方市、飯塚市、田川市のご協力を得て、直方市内の4校(植木、直方北、直方南、下境)、飯塚市内の6校(椋本、若菜、楽市、大分、片島、伊岐須)、田川市内の1校(大浦)で試行授業を実施しました。

平成26年度は、直方市、飯塚市、田川市ではもっと多くの学校でご活用いただけるよう、また他の自治体の小学校でもご活用いただけるよう、取り組みを拡大して参ります。

授業時期:2学期  
(平成25年)

小学校5年生 向けに  
パッケージ型教材を作成しました

授業時期:3学期  
(平成26年)

## 理科「流れる水のはたらき」

- ・身近な遠賀川の素材で流水の働きを知る
- ・実感を伴った洪水発生メカニズムを学ぶ

身近な遠賀川を題材にすることで、地域への愛着を育み、環境問題に取り組む素地を養います。また、実感を伴った洪水発生メカニズムを学ぶことで、防災への理解を促します。

貸し出し可能な  
補助教材も作成

教師用解説付き  
流水実験VTR

連動した  
学習

## 社会「自然災害から守る」

私たちの暮らすまちで最も起こりやすい自然災害「風水害」に焦点を当て学習

身近な遠賀川の「風水害」を通して、なぜ日本では災害が起こりやすいか、国や市町村の防災対策、自然災害に備えて自分たちにできること(自助)が何かを学びます。

働く人への  
インタビューVTR

副読本  
(水害知っとこ)



遠賀川流域  
立体地図  
(A3版)



遠賀川の石  
(実物)

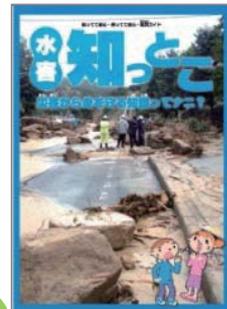


映像

遠賀川が増水した時の映像



国・市・水防団・報道などから  
選べます。



教師用  
解説資料  
(社会・理科)

教師用  
各時間の板書  
計画(社会)



飯塚市立椋本小 理科  
= 上流の石と下流の石 =



直方市立植木小 社会  
= 水害から守る =

## 試行授業後の先生の感想

- 教師の発問に対して、常に身近な川を意識しながら自分の考えをまとめていた。
- 単元末の評価テストでは、『満足』『十分満足』の割合が高く、児童の学習理解が進んでいた。
- 子ども達にとって身近な遠賀川の映像で学習ができたので、とても意欲的に単元を通して取り組むことができた。

## 遠賀川流域だより

発行 国土交通省遠賀川河川事務所  
住所 直方市溝堀1丁目1-1  
電話 (0949) 22-1830  
FAX (0949) 22-2859  
HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>

皆様のご意見、ご感想をお寄せください。



協力 NPO法人遠賀川流域住民の会  
電話 0948-22-3535  
<http://www.ongagawa.jp/>